

アサ科 カラハナソウ属

カラハナソウ (唐花草)

Humulus lupulus L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.



自生環境

山地、林縁など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



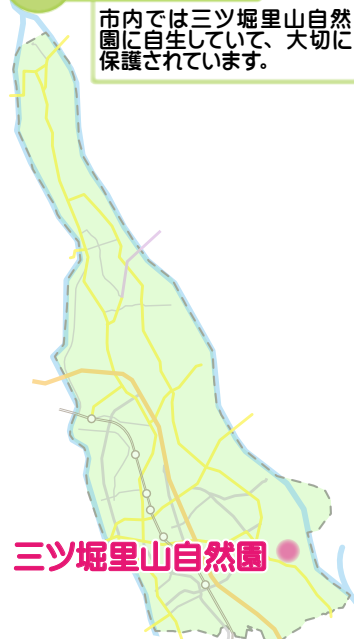
もともと山の植物で、千葉県では北部に限られたところにしか確認されていません。野田市では三ツ堀里山自然園にのみ生育、現在は大切に保護されています。

特徴

- ☆ 本州中部より北の比較的涼しい地域で、山道沿いに生える、つる性の多年草です。分布の南限ギリギリに位置する千葉県では、きわめて数が少ないため、最重要保護生物となっています。
- ☆ 旺盛につるをのばし、あちこちに覆いかばさったり絡みついたりしています。同時に地下茎を長くはりめぐらせ、これでどんどん増えていきます。茎や葉にはずり愛知帽子の役目を持つ、下向きの刺がたくさん生えていて、さわるとザラザラします。
- ☆ 雌雄別株で、雌株は花の後に苞が大きくなって、ホップにそっくりな姿となります。ただ日本のカラハナソウはホップとちがい、香りはあまりありません。タネは苞の中に包まれるようになってきますが、野田市には雌株しかいないため結実せず、地下茎のみで増えています。

市内の分布状況

市内では三ツ堀里山自然園に自生していて、大切に保護されています。



三ツ堀里山自然園

日本原産のホップ

カラハナソウはいわば「日本のホップ」です。ビールの味や香りづけに使われるホップ。その日本名はセイヨウカラハナソウで、カラハナソウとはお互いに変種の関係にあります。ホップは西アジア原産で、かつてはビールの原料用に栽培される程度でしたが、最近は苗が簡単に入手できるようになりました。グリーンカーテンに最適ですが、地下茎で猛烈に繁殖するため、地植えはおススメしません。



松ぼっくりのような苞の中にタネができる

つるであちこちに絡みつく

葉は3つ~5つくらいに切れ込む



雄花

雄しべはわずかな風でもぶらぶらと大きく揺れる

雌花

しゅつとのびた長い雌しべが目立つ

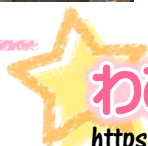


黄色い点々があり、ビールの香りがする

葉の切れ込みはカラハナソウよりも深い

変種

セイヨウカラハナソウ



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

